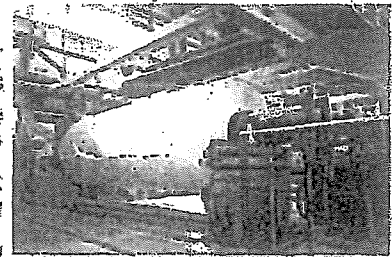


印刷用紙、卸値2割上昇

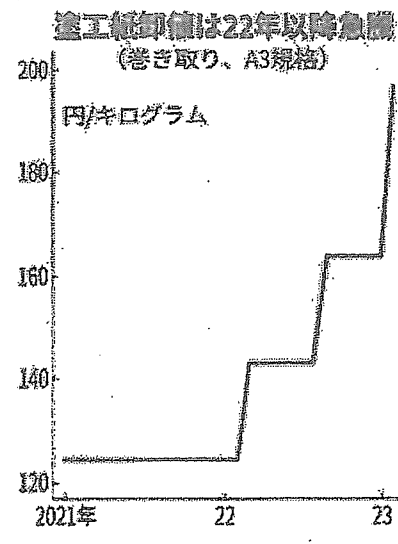
原燃料高や輸入紙減響く

印刷用紙の国内卸値が2割上がった。原料の価格高騰や2022年秋までの円安を背景に、製紙会社が値上げを表明。輸入紙の流通が減るなか、印刷会社は国内の安定調達を重視して受け入れた。22年の春と秋に続く値上がりで、卸値の上昇率は3回で計6割に達した。カタログなどのデジタル化が一段と進む可能性がある。



2回目の値上げ浸透後も生産コストは増加している

印刷用紙の代表格で、主にカタログなどに使うロール状の塗工紙(巻き取り、A3規格)の代理店価格は1円増し96・5円前後。前回の値上げが浸透した22年9月と比べて2割高へ、データ



を越えることができた。1997年9月以降の最高値を更新した。3回の値上げ前と比べると、塗工紙の卸値は6割弱上昇した。印刷用紙全体の値上がり幅は品種ごとに異なるが「前回値

上げ時から平均2割以上高で妥結した」と(製紙会社)という。2回目の値上げ交渉が決着した22年秋以降も、ボイラーに使う石炭の価格が一段と高騰し、メツ

やパルプの価格も高止まりしている。大王製紙や日本製紙といった製紙各社は10~11月、原燃料高によるコストアップの転嫁を理由とした値上げを打ち出した。22年10月までの急激な円安で、原料の調達コストが上がったのも値上げの理由だ。印刷会社の担当者は「1円増し50円程度と、歴史的に大幅な円安になっていくことが2回目の値上げとの違い」と話す。

だ。商社によると「複数回にわたる大幅な値上げで、印刷会社の抵抗は強かった」。一方、製紙会社の業績はコスト高で大きく悪化。日本製紙は2月14日、22年3月期の連結最終損益が480億円赤字になる見通しを発表し、従来予想を230億円下方修正した。「製紙会社からは、このままでは持続的な生産に支障が出てくる恐れがあるとの話があった」と(印刷会社)。

印刷用紙の需要はデジタル化の進行で減り続けている。コロナ禍で勢いは加達した。製紙会社の予測によると、23年の印刷用紙の内需はカタログや折り込みチラシに使う塗工印刷用紙が19年比30・7%減、雑誌などに使う非塗工印刷用紙は同24・5%減る。

印刷会社によると「過渡期」の値上げで、得感先から販促費見直しによるチラシ発行を控えるといった動きが出てきている。3回目の値上げを受け、流れが一段と加速する可能性がある。供給サイドでも、需要

に合わせた生産能力を縮小する可能性がある。すでに日本製紙は22年5月、石巻工場(宮城県石巻市)にある大型の抄紙(じょうし)機を止めている。輸入紙も増加の可能性は低い。ある商社によると「欧州などは、洋紙の生産コストが高すぎる」として生産しない方向に切り替えている。

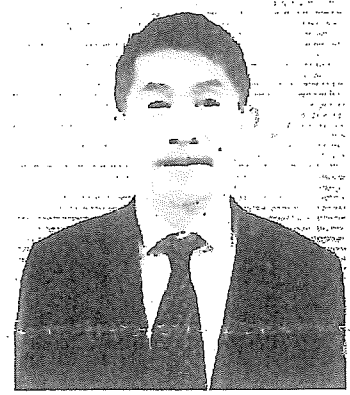
日本印刷新聞

発行所 日本印刷新聞社
 株式会社
 東京都中央区新富1-16-8
 電話(03)3553-5881(代表)
 大阪市中央区北浜3-5-19
 605号 電話(06)6222-0834
 札幌 電話011-40-3-6984

名入れカレンダー 卸値約2割値上げ

JCAL 背景に原価の高騰 “一物多価”移行を検討

全国カレンダー出版協組連合会(JCAL)、宮崎安弘会長は、原材料、光熱費の値上げ、相次ぐ用紙代の高騰、為替変動などを踏まえ、4月から卸値の約2割値上げに踏み切った。またカレンダーの「一物一価」の商品に対して「単一の価格のみ」の値付けから、「一物多価」の商品が多数ある手帳や備忘録の値付けを「一物多価」の商品の価格に引き上げを検討している。また、手帳や備忘録の価格に引き上げを検討している。



宮崎会長
 昨年4月、宮崎会長は「日本印刷新聞」紙上で「コスト上昇は避け、卸値を約1割値上げする考えを明かした。その後、用紙代は2割に値上がりした。そのほかの値上げ分を含めると、原価は昨年比で12%上昇した。これら

の要因によって、今年も苦境の決断を迫られ、4月からの約2割の値上げを実施せざるを得なくなると、理解を求めている。また、手帳や備忘録の下部に「名入れ印刷」に関する注釈を早期に注釈する。卸値は値上げ幅が縮小する「一物多価」を検討している。

「名入れ印刷」の注釈は、印刷機で印刷する際、名入れの注釈がある場合は、名入れ後加工となり、生産性を上げにくい環境下、外注で製作しているものを内製化し、厚労省の労務省に届出を済ませる必要がある。各社の企業努力は限られている。

昨年4月、宮崎会長は「日本印刷新聞」紙上で「コスト上昇は避け、卸値を約1割値上げする考えを明かした。その後、用紙代は2割に値上がりした。そのほかの値上げ分を含めると、原価は昨年比で12%上昇した。これら

「名入れ印刷」の注釈は、印刷機で印刷する際、名入れの注釈がある場合は、名入れ後加工となり、生産性を上げにくい環境下、外注で製作しているものを内製化し、厚労省の労務省に届出を済ませる必要がある。各社の企業努力は限られている。

年末までが繁忙期となるが、職人の高齢化が進み、人手も足りなくなる。アルバイトや外国人労働者を雇うことになるが、人手不足、人件費の高騰で雇用もままならない。また、手帳や備忘録の注釈は、8月前半分までの注文分というように注文時期に応じて、値上げ幅を調整する方針も検討している」と話す。

「名入れ印刷」の注釈は、印刷機で印刷する際、名入れの注釈がある場合は、名入れ後加工となり、生産性を上げにくい環境下、外注で製作しているものを内製化し、厚労省の労務省に届出を済ませる必要がある。各社の企業努力は限られている。